

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-134	高等学校	芸術	美術Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美Ⅱ 116-901	新・高校生の美術 2		

I. 編修の趣旨及び留意点

- 本教科書は教育基本法第一条に示す教育の目的及び第二条に示す教育の目標に則り、「高等学校学習指導要領第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第5 美術Ⅱ」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして編修に努めた。
- 本教科書の編修に当たっては、特に「高等学校としての美術の学びを実感し、美術を通して生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を養うことができる教科書」を目指し、以下の3事項を重視して新しい教科書を編修することを趣旨とした。

(1) 美術Ⅰとの学びの連続性がある教科書

- ・美術Ⅰの学習を踏まえ、主題の生成を重視し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する学びを明確にした上で、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞の各題材ページを作成した。加えて、中学校からの美術の学習の基盤である形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕に配慮して感じ取る視点や考える視点などを盛り込んだ。

(2) 高等学校美術としての学びが実感できる教科書

- ・高等学校の美術Ⅱとしての学びが実感できるように次のような工夫をした。
 - ①巻頭オリエンテーションの役割を明確にし、視点や発想の転換を意識して新たな見方や柔軟な思考を働かせながら教科書の各題材を学んでいけるようにした。
 - ②時代による絵画等の役割の変化と表現の意義などを考えさせるオリエンテーション、AIと美術表現について考えさせる FOCUS、美術の論考を読み作品の見方などを広げさせる鑑賞題材などを設定し、普遍的なものから最新の内容まで、幅広い観点から美術に対する見方や考え方が深まるようにした。
 - ③各題材に、学びの目標を短い言葉で分かりやすく記載すると共に、問いかけの言葉を基に考えたり対話したりすることで新たな視点に気づき、発想や鑑賞が深められるようにした。
 - ④対象や心の中を深く見つめる、作家の生き方と美術を考える、日本の美術作品や文化を理解するなど、高校生の発達に合った深みのある題材を配列した。

(3) 生活や社会と豊かに関わる力を育む教科書

- ・身近な生活の中にある物や場面、風景などを見つめ直したり、生活の中にあるデザインなどについて考えたりできるように、題材や FOCUS 等の設定、図版の選定に配慮した。特に憩いの場のデザインや行為を誘うデザインなど、国や時代を超えて生活に根づいているものから現代的なものまでを幅広く取り上げた。

- ・アートイベントをきっかけに美術がコミュニケーションの場をつくりだし、地域を変える事例を取り上げ、アートがもつ可能性を考えさせる巻末ページを設けるなど、生活や社会との関わりを幅広く意識できるように工夫した。

II. 編修の基本方針

○本教科書においては、教育基本法第二条に示される教育の目標を達成するために、七つの具体的な基本方針を定め、編修に努めた。

- ・二条第一号は①と②に、第二号は③に、第三号は④に、第四号は⑤に、第五号は⑥と⑦に対応している。

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

○教科書編修に関する具体的な基本方針

①幅広い知識と教養を身に付ける

美術史的な観点から著名な作家や作品に配慮して作品を選択し、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞について幅広く学べるように各題材ページに加えて、オリエンテーションや特設ページ等を設定し、内容やバランスを考慮すると共に、美術史や技法等のページも充実を図った。

②豊かな情操と道徳心を培う

芸術としての美術の学びを重視し、表現することの意義や作者の心情などを理解できるように題材や記述内容を工夫した。これにより、自己や他者の考えや作品を大切にする心、よさや美しさを大切な価値とし、それを求めようとする心などが育成されることをねらいとした。

③個人の価値を尊重し、創造性を培い、勤労を重んずる態度を養う

主題の生成や作者の意図と表現の工夫を重視し、生徒が感性や創造性を発揮しながら自己の価値意識をもって表現や鑑賞ができるように題材や記述内容を工夫した。また、時間をかけて集中して制作に取り組む中で、努力することのよさや達成感が味わえるような授業を目指す教科書づくりに配慮した。

④正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、社会形成に参画する態度を養う

鑑賞活動やコマ撮りアニメーションでの共同制作等において、他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から正義と責任、男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を培えるようにした。また、公共の場で用いられるデザインを考えることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるような題材を盛り込んだ。

⑤生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する

自然のよさや美しさを見つめ直したり、自然との共生や環境との調和から美術を考えたりする題材を設定し、自然を大切に、美しい環境を保全していく態度の形成に寄与する教科書づくりに配慮した。

⑥伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する

日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図ると共に、特に日本美術を代表する絵巻物については大きな図版で示すと共に、やまと絵の作風を取り入れた現代画家の論考等を併せて読むことで、新たな視点や考えを深めながらよさが実感できるように充実させた。また、日本の伝統的な木彫と西洋の近代彫刻の影響を受けた高村光太郎の彫刻を取り上げ、継承することと時代に応じて創造することのよさなどを理解できるようにした。

⑦国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

自己の表現と共に他者の表現も大切にしている心情や、自国の文化と共に他国の文化を尊重する態度などを育成することで、美術による人間理解や国際理解が深められ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことのできる内容にした。

Ⅲ. 対照表

○本教科書は学習指導要領に示されている内容の構成に基づき、生徒の学習のしやすさを考慮してオリエンテーション、絵画・彫刻（表現・鑑賞）、デザイン（表現・鑑賞）、映像メディア表現（表現・鑑賞）、資料に分類している。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や留意点	該当箇所
オリエンテーション	① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。 ② 書籍の言葉から、自由な発想ができる美術のよさに着目させると共に、鑑賞者も参加して作品を完成させる制作の手法から、個々の価値を尊重する中で創造性を培い自主自立の精神を養うことをねらいとして編修に努めた（第二号）。	①p. 2・3 ②p. 2・3
絵画・彫刻	① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。 ② 一人一人のよさや個性が尊重され、その能力を十分発揮する中で、相互に創造性を高め合うことができるような表現と鑑賞の活動を充実させた（第二号）。 ③ 自他を見つめ、それぞれの個性を尊重し生命を尊ぶ態度や、身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、環境の保全に寄与する態度を育む機会となる内容を設けた（第四号）。 ④ 日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図り、西洋における時代による絵画等の役割の変化などを考えるオリエンテーションや、絵巻物などの日本美術の特質やよさを味わう題材を設け、我が国や諸外国の美術文化への理解が深まるように配慮した（第五号）。	①p. 4～43 ②p. 4～43 ③p. 6～11、18・19、20～23、42・43 ④p. 4・5、24～31

デザイン	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 檜垣万理子のデザインの考え方に触れることで、デザインを通して社会に貢献しようとするデザイナーの意識や姿勢を理解し、デザインの仕事に対する意識を高められるよう配慮した（第二号）。</p> <p>③ 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。デザインの表現と鑑賞の活動を通して、その能力を培えるよう配慮した（第三号）。</p> <p>④ 身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、造形に生かす力を培うとともに、環境の保全に寄与する態度を育めるよう配慮した（第五号）。</p>	<p>①p. 44～57</p> <p>②p. 50・51</p> <p>③p. 44～57</p> <p>④p. 56・57</p>
映像メディア表現	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。映像メディア表現の表現と鑑賞の活動を通して、その力を培えるよう配慮した（第三号）。</p>	<p>①p. 58～67</p> <p>②p. 64・65</p>
特設ページ (FOCUS)	<p>① 造形的な見方・考え方などに焦点を当てて学ぶことで、美術の本質や真理を求める態度を養うとともに、身近な生活に目を向けて造形や美術を豊かに感じ取ることをねらいとした課題を設けた（第一号）。</p>	<p>① p. 12・13 p. 52・53 p. 66・67</p>
資料	<p>① 我が国及び他国の美術文化の歴史を知ることは、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うと共に、我が国の伝統と文化を尊重し、他国を尊重して国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに通じる。そのようなねらいをもって、時代や地域に焦点を当てて美術史に関する資料を設定した（第一号、第五号）。</p> <p>② 美術で用いる描画材料について知り、表現技術の習得に励むことは、人類の長い歴史の中で培われてきた知識や教養を身に付け、美や人間存在の探求という真理を求める態度を養うことに通じる。また、表現の多様性を知ること個人を尊重し、創造性を培うことに通じると考え、表現技法に関する資料を豊富に設定した（第一号、第二号）。</p> <p>③ 美術の活動は単に作品を表現したり鑑賞したりするだけではなく、美術で伝えたり美術がコミュニケーションの場をつくりだしたりするなど、生活や社会との関連を重視して美術の働きを幅広く捉えることができるよう配慮した（第二号）。</p>	<p>①p. 80～87</p> <p>②p. 68～79</p> <p>③p. 88・89</p>

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 学習の課題を設置

- ・表現題材に具体的な表現課題を設置し、課題から生まれた生徒作品や生徒の言葉などを記載した。表現活動における発想や構想を参考にできるように努めた。

(2) 学習内容の関連を重視

- ・教科書を学習資料として一層使用しやすくし、生徒の学習効果が高まることを期待して、題材の内容や掲載している作家、作品などに関連する項目が他のページに掲載されている場合、関連ページを参照できるようにリンクを記載した。

(3) 主体的・対話的で深い学びの推進

- ・各題材に問いかけの言葉を設定し、ひらめきワードや学びの目標にその解決に結びつく気付かせたい視点や考え方、キーワードを盛り込むことで、見方・考え方を働かせて、主体的・対話的で深い学びが推進される中で、ねらいとする資質・能力が育成されるように工夫した。

(4) 他教科との関連を重視

- ・日本史や世界史などの教科書に掲載されている美術作家や作品、家庭科で取り上げられている住生活に関連するデザイン、評論など、他教科で取り上げられている内容を研究し、積極的に教科書の紙面に反映させることで、他教科との関連を図り、生徒の学びが一層深まるように配慮した。

(5) 言語能力の育成

- ・導入時に鑑賞活動を行い、生徒同士の意見交換が深まるよう、問いかけの言葉を投げかけ、見方・考え方を働かせながら話し合いを促すような工夫を凝らした。
- ・映像メディア表現の鑑賞題材では、制作者の思考や表現の工夫を言語と画像で分かりやすく掲載し、自分の考えを言語化し、伝えることの大切さとその技術について学べるよう配慮した。

(6) 社会との連携

- ・美術がつくりだす人のつながりや地域社会との関連を視野に入れた学習活動を紹介するページを設け、生徒の学習意欲が向上するように工夫した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-134	高等学校	芸術	美術Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美Ⅱ 116-901	新・高校生の美術 2		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

○本教科書は「高等学校学習指導要領 第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第5 美術Ⅱ」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することができるよう、以下の各項目において特に意を用いて編修した。

(1) 実態調査を基にした題材設定

・幅広い創造活動を体験し、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験が深められるよう、全国で行われている授業の実態を調査し、取り組みやすい題材から応用的な題材まで、豊富な事例を用意した。

① 多くの学校で取り組まれている、鉛筆などの線を用いて表す題材では、線の強弱やタッチ、明暗などの描き方が異なる参考作品を複数提示し、主題と線の効果について考えられるようにした。また、アニメのような風景や錯視的な写真題材を提案するなど、高校生の関心や意欲を高めながら主題性のある表現を追求できるようにした。

② 授業で取り組みやすい風景画や静物画、人物画の指導を想定し、水、奥行きや空間、質感、動きや配置、画面の構成などの効果に視点を当てた題材ページを設定した。表現する際にそれらの視点を意識し、生かすことで主題がより追求されるように工夫した。

(2) 参考作品を幅広く豊富に掲載

・生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育てられるよう、身近な内容から普遍的な価値をもつ美術作品まで幅広く掲載し、多方面から興味をもって学習に取り組めるよう留意した。

① 身近なものや人物、風景などを見つめ直す題材や、身の回りのデザインや自然を取り入れた建築を取り上げた題材など、身近な自然や生活の中から題材を設定し、生活や社会の中で美術を意識できるようにした。

② 西洋の著名な作家や日本の美術などについて、複数の図版や丁寧な解説を加えることにより、興味・関心や理解が深まるようにした。

(3) 明確な学びの視点と学習のねらい

・造形的な見方・考え方を働かせ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が育成できるよう、各題材に学びの目標等を明確に示し、生徒が具体的な学びの視点をもって学習に取り組めるよう留意した。

- ① 題材の本文で、主題と表現の工夫について考えさせるように問いかけ、ひらめきワードでヒントとなる造形的な視点を示すなど、造形的な見方・考え方などを働かせて、三つの柱で示された資質・能力が育成できるようにした。
- ② 各題材に、学びの目標として「知識及び技能に関する目標」「思考力、判断力、表現力等に関する目標」「学びに向かう力、人間性等に関する目標」を分かりやすく短い言葉で明確に示した。

(4) 美術史の充実

- ・美術文化についての理解を深められるよう、学習内容の参考となる美術作品を、美術史の長い歴史の中から精選し、掲載した。
 - ① 題材の参考作品を掲載する際に、美術史的な観点から著名な作家や作品に配慮して作品を選択した。
 - ② 日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図り、西洋における絵画の役割や意義を考えるオリエンテーションや、絵巻物などの日本美術の特質やよさを味わう題材を設け、知識等を学びながら理解が深まるように図版や解説を充実させた。
 - ③ 巻末には、西洋と日本の現代につながる美術や、アジアの美術、近現代の日本の建築史などを取り上げ、美術史資料としてまとめた。時代や風土の違いなどによる表現の違いや共通点に着目しながら美術文化を捉え、見方や感じ方を深められるよう工夫した。

(5) 技法・色彩資料の充実

- ・高等学校において美術を学習する上で、身に付けておきたい材料や用具についての知識、表現技法などを、幅広く取り上げた。
 - ①各題材を学習する上で必要になる固有な技法については、当該のページで解説し、材料用具の扱いや制作のプロセスなど、様々な表現の基礎的な内容となる技法については資料ページに掲載するなど、授業での使いやすさに配慮した。
 - ②色彩について知識理解を深め活用するための資料を巻末にまとめた。色彩について体系的に理解できるように、PCCSの12色相環とトーン分類図を掲載した。色彩に関する資料ページは、片観音で本の外側に広げられるように設定し、どのページを学習していても、いつでも参照できるように工夫した。

(6) 学習意欲向上への工夫

- ・生徒が教科書を開くことに楽しみを覚え、高い意欲で学習に取り組めるよう、様々な工夫を施した。
 - ①絵巻物を6ページ続きの両観音で開くページに掲載し、大きな図版で鑑賞することで場面が移り変わる中での人や馬、建物や炎などの細部の描き方などに着目し、作者の表現の工夫を読み取ることができるよう配慮した。また、やまと絵の作風を取り入れた現代画家の論考等を合わせて読むことで、新たな視点や考えを深めながら、そのよさについて実感をもって味わえるように工夫した。
 - ②作品を掲載している作家の顔写真と言葉を掲載し、作家の考えに触れられるよう工夫した。
 - ③美術についての論考を掲載することで、美術に対する様々な考えを知り、自分にはなかった見方や考え方を学ぶことの楽しさに気付くように配慮した。

(7) 「美術が場や暮らしをつくりだす」

- ・この教科書の学びのまとめとして、美術の活動は単に作品を表現したり鑑賞したりするだけではなく、人のつながりやコミュニケーションの場などをつくりだし地域を変えるなど、社会の中の美術の働きや可能性を幅広く捉えることができるように巻末に例示した。

II. 対照表

学習指導要領の内容の構成			
領域	A 表現	事項	
		(1) 絵画・彫刻	<p>ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想 (ア) 自然や自己、社会などを深く見詰め感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成すること。 (イ) 主題に応じて表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練ること。 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すこと。</p>
		(2) デザイン	<p>ア 目的や機能などを考えた発想や構想 (ア) 目的や条件などを基に、人と社会をつなぐデザインの働きについて考え、主題を生成すること。 (イ) 社会におけるデザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練ること。 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すこと</p>
	(3) 映像メディア表現	<p>ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想 (ア) 自然や自己、人と社会とのつながりなどを深く見詰め、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。 (イ) 映像表現の視覚的な要素などの効果的な生かし方について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練ること。 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すこと。</p>	
	B 鑑賞	(1) 鑑賞	<p>ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めること。 イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから表現の独自性などを感じ取り、時代、民族、風土、宗教などによる表現の相違点と共通点などから美術文化について考え、見方や感じ方を深めること。</p>
[共通事項]		(1)	<p>ア 造形の要素の働きを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。</p>

図書の構成・内容		学習指導要領の内容				該当箇所
		内容			内容の取扱い	
		A 表現	B 鑑賞	[共通事項]		
オリエンテーション	視点を交える 発想を解き放つ		(1)ア(ア)	(1)アイ	(3)	p. 2・3
オリエンテーション	絵画の役割とは		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)	p. 4・5
(1)絵画・彫刻	人物の表現	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 6・7
	水のある情景を描く	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 8・9
	奥行きのある風景を描く	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 10・11
	FOCUS 視・触覚		(1)ア(ア)	(1)アイ	(3)	p. 12・13
	主題を追い求めて描く	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 14・15
	抽象画を描く	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 16・17
	植物を描く	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 18・19
	モネ「睡蓮」を読み解く		(1)ア(ア) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(3)	p. 20～23
	日本美術の鑑賞 1		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)	p. 24～29
	日本美術の鑑賞 2		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)	p. 30・31
	線で表す	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 32・33
	版で表す	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 34・35
	作家探究 高村光太郎		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)	p. 36・37
	身の回りの物でつくる	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 38・39
創造の舞台裏 土屋仁応	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 40・41	
立体表現の可能性		(1)ア(ア) イ(イ)	(1)アイ	(3)	p. 42・43	

オリエンテーション	問題を解決する発想の転換とは？		(1)ア(イ)	(1)アイ	(3)	p. 44・45
(2) デザイン	ポスターで表す	(2)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(イ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 46・47
	情報を伝えるデザイン	(2)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(イ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 48・49
	創造の舞台裏 檜垣万里子	(2)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(イ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 50・51
	FOCUS 行為を誘うデザイン		(1)ア(イ)	アイ	(1)(2)(3)	p. 52・53
	作家探究 チャールズ&レイ・イームズ		(1)ア(イ) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(3)	p. 54・55
	緑化建築を見る		(1)ア(イ) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 56・57
オリエンテーション	実写のよさ、CGのよさとは？		(1)ア(イ)	(1)アイ	(3)	p. 58・59
(3) 映像メディア表現	創造の舞台裏 山崎 貴	(3)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(イ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 60・61
	主題と写真表現	(3)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(イ) イ(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 62・63
	モーショングラフィックスで表す	(3)ア(ア)(イ) イ(ア)	(1)ア(イ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p. 64・65
	FOCUS AI と人間		(1)ア(イ)	(1)アイ	(3)	p. 66・67
資料	コマ撮りアニメーション				(3)	p. 68・69
	人物紹介動画				(3)	p. 70・71
	チラシのデザイン				(3)	p. 72・73
	色彩（配色とトーン）				(3)	p. 74
	テンペラ画を描く				(3)	p. 75
	箔を使って日本画を描く				(3)	p. 76
	版画技法				(3)	p. 77
	基礎的な技法資料				(3)	p. 78・79
	現代美術を観る				(3)	p. 80・81
	現代につながる美術				(3)	p. 82・83
	アジアの美術				(3)	p. 84・85
近現代の日本の建築史				(3)	p. 86・87	
オリエンテーション	アートがもつ可能性		(1)イ(イ)	(1)アイ	(3)	p. 88・89